

度 158m 付近でケーシングパイプの破損を確認し、泉源修復工事により開発初期の泉源状況や湧出状況に回復させることは困難であることが判明した。揚湯試験では、現状のままでも新たな水中モーターポンプを設置すれば、揚湯量 100L/min・泉温 46℃程度の湯量は確保できる結果が得られたため、今後は予備泉源として利用することを提言した。

## 7. 依頼調査

### 7. 1 新得町十勝丸山石灰華調査

(担当)：廣瀬 亘・八幡正弘

新得町内の活火山である丸山（十勝丸山）の山腹で確認された石灰華堆積物（仮称：ワッカタリベツ川石灰華群）について、その位置や規模・性状を明らかにし、地質学的・社会教育学的評価を行うために、現地における地形地質調査・室内での試料分析を行った。現地調査は、平成 20 年 7 月 1 日～2 日に実施した。

ワッカタリベツ川石灰華群は、白亜系～古第三系の日高累層群および第四紀火山である丸山火山の噴出物を覆い、少なくとも大小 7 箇所の石灰華から構成される。石灰華のうち最大のもは規模東西 600m、南北 150m におよび、丸山周辺のみならず国内的に見ても最大級である。既存資料の解析から少なくとも形成から 60 年以上は経過しており、消長を繰り返しているようである。

沈殿物は自然硫黄、非晶質な水酸化鉄・石膏・硫化鉄（白鉄鉱）・硫化マンガン（ハウエル石）・炭酸カルシウム（方解石）等で構成される。丸山火山に由来する火山ガスと地下水が混合し、湧出後の条件変化でそれぞれ異なった沈殿物が形成されたと推定される。

国内では第一級の規模を持つ石灰華群であること、初生的な地形・地質が手つかずのまま保存されていることから、地質学的にも高い価値を持つといえる。

### 7. 2 地質環境の長期安定性のための古環境変遷解析に係る地質調査

(担当)：高清水康博

地質環境の長期的変遷を明らかにするために、幌延町管内に広く分布する更新統を対象とした堆積相解析による古環境の復元を目的とする。また、室内透水試験からそれらの地層の透水係数を測定し、帯水層としての特徴を考察する。平成 18 および 19 年度に実施した幌延地区と下沼地区の依頼調査結果と、深地層研究センターにおいて実施した上幌延地区の古環境復元の再検討を行った。その結果、これらの更別層は、デルタシステム、バリアー-潟システム、および海浜-外浜システムからなると解釈した。また、これらの地層と、幌延町に分布する勇知層から不攪乱試料を採取し室内透水試験によって透水係数を求めた。その結果、勇知層・更別層の堆積相と透水異方性・不均質性には関連があることを指摘した。

### 7. 3 倶知安町字花園国有鉱泉地調査

(担当)：柴田智郎・秋田藤夫

北海道財務局からの依頼により、虻田郡倶知安町字花園国有鉱泉地において 10 月 9 日～10 日の 2 日間に調査を実施した。調査鉱泉地は 1 ヶ所で、調査項目は湧出量、泉温、pH 及び電気伝導度で、測定結果は、調査報告書にとりまとめ財務局へ報告した。